



2023年11月8日

各 位

会 社 名 ENEOSホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 齊藤 猛
 コード番号 5020 東証プライム・名証プレミア
 問合せ先 インベスター・リレーションズ部 IRグループ マネージャー
 江口 小百合
 (電話番号 03-6257-7075)

2024年3月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2023年5月11日に公表いたしました2024年3月期通期連結業績予想(以下、「前回予想」)を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年3月期 通期連結業績予想数値の修正(2023年4月1日~2024年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
前回発表予想(A) (2023年5月11日発表)	13,400,000	340,000	310,000	180,000	59円71銭
今回修正予想(B)	14,000,000	420,000	400,000	240,000	79円61銭
増減額(B-A)	600,000	80,000	90,000	60,000	19円90銭
増 減 率	4.5%	23.5%	29.0%	33.3%	33.3%
(ご参考)前期実績 (2023年3月期)	15,016,554	281,285	257,435	143,766	46円57銭

(注) 2023年8月10日公表の通期の連結業績予想では、5月11日公表を据え置きました。

2. 修正の理由

原油価格(ドバイ原油)前提を10月以降85ドル(前回予想では80ドル)、および円の対米ドル相場を10月以降140円(前回予想では130円)へ見直したことに伴い、原油および石油製品等の在庫影響※による利益が500億円(前回予想比500億円の増益)となる見通しであり、営業利益は4,200億円(前回予想比800億円の増益)、親会社の所有者に帰属する当期利益は2,400億円(前回予想比600億円の増益)となる見通しです。

※ 総平均法及び簿価切り下げによるたな卸資産の評価が売上原価に与える影響

なお、在庫影響を除いた営業利益相当額は、以下のとおり、3,700億円(前回予想比300億円の増益)となる見通しです。

<在庫影響を除いた営業利益相当額>

(単位:億円)

	前回予想	今回予想	増減額
営業利益	3,400	4,200	800
在庫影響	0	500	500
在庫影響を除いた営業利益相当額	3,400	3,700	300

事業セグメント別では、エネルギー事業において国内石油製品・輸出マージンの良化等により前回予想比 100 億円の増益、石油・天然ガス開発事業は円安の進行等により 300 億円の増益、金属事業は半導体・スマートフォンの需要回復遅れによる半導体材料・情報通信材料の減販等により 50 億円の減益を見込んでおります。

<事業セグメント別内訳>在庫影響を除いた営業利益相当額 (単位：億円)

	前回予想	今回予想	増減額
エネルギー事業	1,600	1,700	100
石油・天然ガス開発事業	500	800	300
金属事業	900	850	△ 50
その他	400	350	△ 50
合計	3,400	3,700	300

本見通しは、通期平均で原油価格（ドバイ原油）；バーレル当たり 84 ドル（10 月以降 85 ドル）、銅の国際価格（LME 価格）；ポンド当たり 371 セント（10 月以降 360 セント）、円の対米ドル相場；141 円（10 月以降 140 円）を前提としております。（前回予想：原油価格；バーレル当たり 80 ドル、銅の国際価格；ポンド当たり 360 セント、円の対米ドル相場；130 円）

（注）本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、（1）マクロ経済の状況又はエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化、（2）法律の改正や規制の強化、（3）訴訟等のリスクなど、が含まれますが、これらに限定されるものではありません。

以上